小樽れっけん

旧大家倉庫（北一硝子倉庫）

加賀の北前船主がつくった小樽の代表的な石造倉庫

旧大家倉庫は、旧小樽倉庫とともに小樽を代表する歴史的建造物の一つといわれる。両方とも加賀の北前船主によって建造された倉庫であるが、説明板には「海産商」と紹介されるのみで、大家家がどのような活躍をしたのか、実は小樽ではあまり知られていない。大家家は北前船主集落として知られる、瀬越（現在の石川県加賀市大聖寺瀬越町）出身で、同郷の広海家と並び、「五大北前船主」と称されるほど繁栄を極めた北前船主である。

大家家は、二代目七三郎（1798-1882）の頃、船商売を始めた。当時、家計が貧しく、七三郎は9歳から11歳まで大聖寺川の渡しを勤め、16歳で橋立村の船主、寺谷源兵衛の船に乗り込み各地を航海した。天保12（1841）年、44歳で両徳丸を新造して独立し、北前船主としての基盤をつくった。

小樽と深い関わりがあったのは四代目七平（1865-1929）である。瀬越の四世広海二三郎（注）の二男栄次郎が、大家家の養子となり四代目となった。四代目七平は率先して西洋型帆船を汽船に転換し、海外の航路を開拓することで大家家の海運業を飛躍的に発展させた。明治24（1891）年、小樽に大家倉庫を建設し、同30年には住吉神社の第一鳥居を兄弟の五世広海二三郎と共に寄進した。

大家家の汽船経営の特徴は、同35年に自らの汽船で日本海一周定期航路を開設したことである。敦賀ーウラジオストク間、小樽ーコルサコフ・ウラジオストク間、七尾ーウラジオストク間などを航路に含み、日本海沿岸地域と対岸の朝鮮・ロシアを直接結ぶ独創的な航路で、大家家は日本海海運史上に重要な役割を果たした。

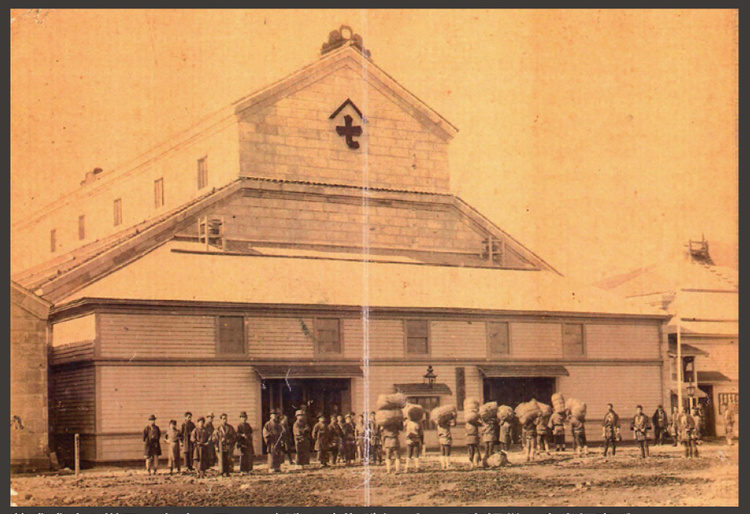
大正15（1926）年には大家商事株式会社を設立し、新たな近代的経営を積極的に推進していったが、昭和4（1929）年1月29日、四代目七平は五世二三郎と同日に亡くなった。五代目七兵衛（1899-1943）は、父の跡を継ぎ海運業の発展を目指したが、第二次大戦で多くの持ち船を撃沈され、大阪の邸宅も爆撃を受け、戦時中に45歳で病死した。天保期以来の大家家の海運業は終焉した。

その後も大家倉庫は営業を続けていたが、平成4（1992）年6月、約6億円を投資しておもちゃ博物館トーイズを開館した。一時は観光客で賑わったが、物販施設の売り上げ不振などで同8年4月に閉館となった。一時、空き家状態となったが、同12年11月、北一硝子の関連会社が購入し、修復された。

同30年5月、小樽市が北前船日本遺産に認定されたことを六代目大家紹嘉氏はとても喜んでいたが、その後まもなく、同年8月、同氏は病気で亡くなられた。この倉庫は大家家が小樽に遺してくれた偉大な遺産である。

注：広海家では「四代目二三郎」を「五世二三郎」と称している。ここでは広海家の数え方に従って記載した。

撮影：落合 亮（小樽商科大学写真部）
文章：高野 宏康（小樽商科大学学術研究員）



落成式時の様子。当時、正面に木造の建物があった。写真提供：大家紹嘉氏。

旧大家倉庫
（小樽市色内2丁目3-12）
明治24年建築。木骨石造平家建て。731㎡。巨大な越屋根と2重アーチが特徴的。外壁には札幌軟石を使用。右側の入口アーチはシャッターになっていたが新しい軟石で復元された。アーチ上部に見られる横線は、屋根が差し掛けられていた跡。豆の選別場などに使用されていたが、戦時中に取り壊された。越屋根内には、床を張りワラ製品などの軽量物を貯蔵しており、当時、支柱が左右5本ずつ10数本建っていた。小屋組はクイーンポストトラス構造。昭和60年、小樽市指定歴史的造物、第1号に指定。平成2年、ブリキ玩具の博物館「小樽トーイズ」となる。同8年、閉館。同12年11月、北一硝子の関連会社が購入。

二重アーチの下部の幾何学的な柱型。外観に軽快な印象を与えている。

正面右手の二重アーチ。トラック荷役のためシャッターとなっていたが、復元された。

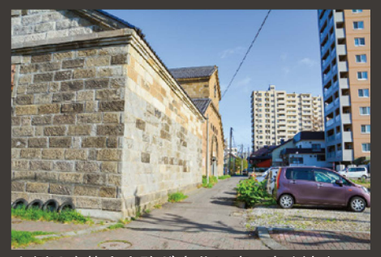
倉庫南側。越屋根の採光窓が特徴的。屋根瓦は北一硝子の関連会社が購入後、復元された。

山側の背面。こちらにも「ヤマシチ」の印がある。

背面の「ヤマシチ」印。創設者の大家七平の名前に由来。

円形の通気口が4つ並び、モダンな印象を与える。

北側隣の旧稲積倉庫があった場所には軟石が積まれている。



山側は出抜き小路が南北に真っ直ぐ続く。

【参考文献】「大家家と海運業」（北前船の里資料館企画展パンフレット、1990年）、「北前船資料目録集　大家七平文書Ⅰ」（1991年）、「大家倉庫改築に着工」（「北海道新聞」（小樽後志版、1991年10月15日付）、「小樽ブリキのおもちゃ博物館　物販伸び悩み閉館へ」（「北海道新聞」（1992年4月11日付）、「小樽の歴史的建造物第1号　旧大家倉庫を売却」（「北海道新聞」（2000年11月8日付）、「歴史的建造物の街小樽」（2012年）、中西聡「北前船の近代史（改訂増補版）」（2017年）。

【謝辞】大家紹嘉さん（大家家六代目当主）、浅原健蔵さん（株式会社北一硝子代表取締役社長）にご協力いただきました。感謝申し上げます。